

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 071

(2024/25年度 USDA米国農務省 6月12日発表)

① USDAの新年度（24/25年度）穀物生産予想は概ね順調で市場価格は低位安定、だが米国作付動向は構造的変化が…

24/25穀物年度は概ね順調な生産予測を受け市場価格は小麦\$6.3/コーン\$4.5/大豆\$11.8/bu前後とロシアのUKR侵攻直後の急騰時に比べ小麦/コーンはほぼ半額、大豆は約3割安の状況で侵攻前レベルをも下回っている。しかしUSDAの今年の米国作付状況報告によると小麦47百万/コーン90百万/大豆86百万acreと小麦/コーンは前年比4.8%▼大豆は微増と全体的には低価格による農家の作付意欲低下が読み取れる。また長期的に見れば小麦は1996年ピーク時の75百万acre⇒▼28百万acre約4割減少、逆に同年比コーンは約10百万acre▲/大豆は約23百万acre▲とこの30年の間に構造的に面積割合を変化させた。この背景はコーン/大豆需要がエタノール/バイオディーゼル等の生産拡大とともに増加、また市場価格も平行して上昇し、価格を下支えしてきたことが農家収入確保に繋がり、その生産意欲を刺激した結果と言える。

② ブラジルに於ける穀物集荷輸出回廊の新たな展開と、サントス港輸出基地確保をめぐる状況にも注目

先月から特集で大豆生産/輸出状況を書き始めているが、大豆の世界で圧倒的な存在感を示しているブラジルに於ける内陸～輸出港までの物流網展開については今月号の地図を参照願いたい。その中で輸出港はまだ港設備が大きな課題ではあるが、ブラジル最大の港湾都市であり最大の穀物輸出港であるサントス港は54箇所のターミナルで埋め尽くされ、新規進出が厳しいと思われたが、22年3月中国穀物商社「COFCO」がSTS-11の25年貸借契約を締結、港湾当局によれば今後船積施設/サイロ増設等に約230億円投資し26年までに1,600万トンの輸出を行う計画としている。また先月29日のロイター電によれば穀物メジャー「BUNGE」と「全農グレイン(ZGC)」が同港ターミナルT-39の50%をブラジル最大の鉄道会社「RUMO」社から180億円で買収したと報じられた。近年の米国GULF積み穀物はパナマ運河の水位低下/航行制限の懸念もあり、最大の穀物輸出国ブラジルをめぐる国内集荷網と輸出基地を巡る争奪戦は今後益々激しくなると思われ、日本にとっても大きな課題である。

1、世界穀物需給の概要（大豆除く）

① 生産量：	2,830百万ト (前年比0.7%)	増↑	、前月比0.3%	減↓
② 消費量：	2,837百万ト (前年比0.7%)	増↑	、前月比0.2%	減↓
③ 貿易量：	500百万ト (前年比2.9%)	減↓	、前月比0.5%	減↓

2、小麦

① 生産量：	791百万ト (前年比0.4%)	増↑	、前月比0.9%	減↓
② 消費量：	798百万ト (前年比0.1%)	減↓	、前月比0.5%	減↓
③ 輸出量：	213百万ト (前年比2.8%)	減↓	、前月比1.5%	減↓
④ 在庫量：	252百万ト (前年比2.8%)	減↓	、前月比0.5%	減↓
⑤ 価格：	\$6.28/Bu (前年\$6.19/Bu / 前月\$6.06/Bu) と前月比\$0.22 上昇。			
⑥ 概況：	生産量はロシア/UKRの霜害やEU長雨の影響で先月より約8百万トの減となったが前年よりは微増。消費量/輸出量は前月/前年比とも若干減少見通し。在庫は消費が生産を上回ったため2.5億ト迄減少し価格は需給タイト感から\$6台半ば近くまで上昇。			

3、とうもろこし

① 生産量：	1,221百万ト (前年比0.6%)	減↓	、前月比0.1%	増↑
② 消費量：	1,222百万ト (前年比0.5%)	増↑	、前月比0.1%	増↑
③ 輸出量：	192百万ト (前年比3.7%)	減↓	、前月比0.3%	増↑
④ 在庫量：	311百万ト (前年比0.5%)	減↓	、前月比0.5%	減↓
⑤ 価格：	\$4.49/Bu (前年\$6.09/Bu / 前月\$4.47/Bu) と前月比\$0.02 上昇。			
⑥ 概況：	生産量/消費量とも12億ト台を維持し順調な滑り出し。輸出量は前月比約2百万ト増加したが前年比では7百万ト減少し2億トまで届かず。在庫量は0.5%程度減少したが在庫率は25%とひっ迫感はない。今のところ世界最大の生産国米国の作付/生育が順調なため市場に安心感が漂い、価格はこの10年来の安値である低位安定の4.5台半ばで推移している。			

4、大豆

① 生産量：	422百万ト (前年比6.7%)	増↑	、前月比0.0%	⇒
② 消費量：	402百万ト (前年比4.8%)	増↑	、前月比0.0%	⇒
③ 輸出量：	180百万ト (前年比4.4%)	増↑	、前月比0.0%	⇒
④ 在庫量：	128百万ト (前年比15.2%)	増↑	、前月比0.5%	減↓
⑤ 価格：	\$11.79/Bu (前年\$13.53/Bu / 前月\$12.02/Bu) と前月比\$0.23 下落。			
⑥ 概況：	生産量はブラジル洪水による減少懸念もあるが米国の順調な作付進捗を受け、4億ト超の4.2億ト/前年比6.7%増の史上最高見通し。ただ消費量は生産量に追いつかず在庫は1.3億トと前年比何と15%超の大幅増。価格は需給緩和見通しから\$12割れ。			

世界の穀物・大豆等の需給

2024年6月12日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2022/23	2,755	3,553	496	2,771	783		
	2023/24	2,810	3,593	515	2,817	775		
	2024/25	5月	2,838	3,611	503	2,842	769	
	2024/25	6月	2,830	3,605	500	2,837	768	
小麦	2022/23	789	1,062	221	791	271		
	2023/24	788	1,059	219	799	260		
	2024/25	5月	798	1,056	216	802	254	
	2024/25	6月	791	1,050	213	798	252	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2022/23	1,450	1,791	220	1,459	332		
	2023/24	1,502	1,835	242	1,495	339		
	2024/25	5月	1,513	1,852	233	1,513	339	
	2024/25	6月	1,511	1,850	233	1,513	338	
米	2022/23	516	699	55	520	179		
	2023/24	520	699	54	523	177		
	2024/25	5月	528	703	54	526	176	
	2024/25	6月	528	704	54	526	178	
大豆	2022/23	378	471	172	370	101		
	2023/24	396	497	173	385	111		
	2024/25	5月	422	534	180	402	132	
	2024/25	6月	422	533	180	402	132	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	5月	313.08	1,219.93	184.37	1,220.75	191.10	312.27
	6月	312.39	1,220.54	186.16	1,222.16	191.75	310.77
アメリカ	5月	51.36	377.46	0.64	320.18	55.88	53.39
	6月	51.36	377.46	0.64	320.18	55.88	53.39
アルゼンチン	5月	1.54	51.00	0.01	14.80	36.00	1.74
	6月	1.54	51.00	0.01	14.80	36.00	1.74
ブラジル	5月	3.84	127.00	1.50	80.50	49.00	2.84
	6月	3.84	127.00	1.50	80.50	49.00	2.84
EU	5月	7.51	64.80	18.00	78.60	4.20	7.51
	6月	7.59	64.80	18.00	78.70	4.20	7.49
日本	5月	1.31	0.02	15.50	15.55	0.00	1.27
	6月	1.31	0.02	15.50	15.55	0.00	1.27
中国	5月	210.86	292.00	23.00	313.00	0.02	212.84
	6月	210.86	292.00	23.00	313.00	0.02	212.84
ロシア	5月	0.96	16.00	0.05	10.90	5.20	0.91
	6月	0.76	15.40	0.05	10.80	5.00	0.41
ウクライナ	5月	2.91	27.00	0.02	4.45	24.00	1.48
	6月	2.91	27.70	0.02	4.65	24.50	1.48

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	5月	111.78	422.26	176.40	401.74	180.20	128.50
	6月	111.07	422.26	176.40	401.63	180.20	127.90
アメリカ	5月	9.26	121.11	0.41	68.99	49.67	12.11
	6月	9.53	121.11	0.41	68.99	49.67	12.38
アルゼンチン	5月	26.15	51.00	5.50	47.60	5.50	29.55
	6月	26.15	51.00	5.50	47.60	5.50	29.55
ブラジル	5月	31.42	169.00	0.15	58.10	105.00	37.47
	6月	30.57	169.00	0.15	58.10	105.00	36.62
中国	5月	36.38	20.70	109.00	126.80	0.10	39.18
	6月	36.38	20.70	109.00	126.80	0.10	39.18
EU	5月	1.46	3.05	14.30	17.02	0.30	1.49
	6月	1.46	3.05	14.30	17.02	0.30	1.49

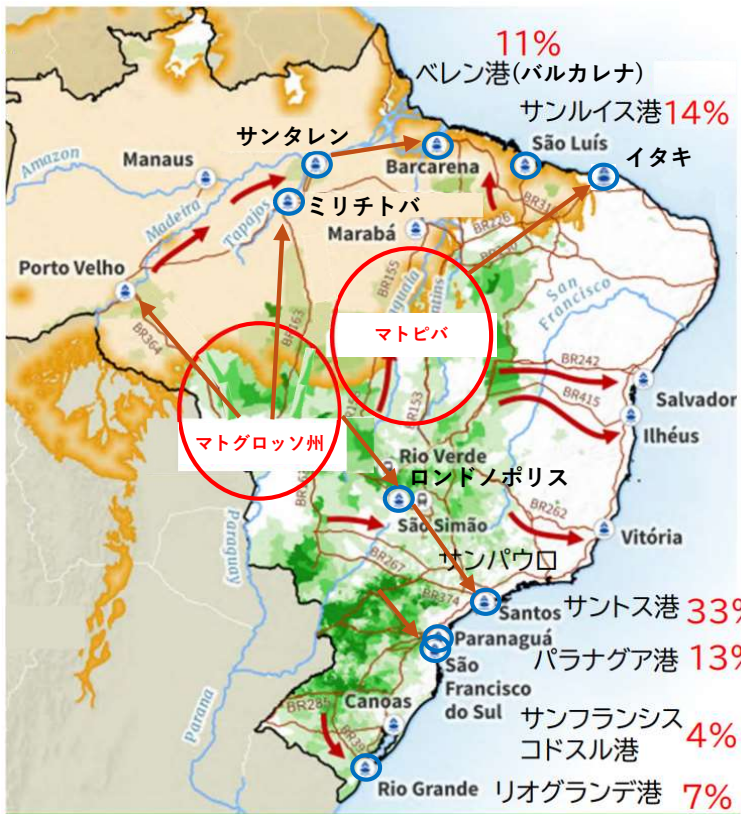
世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	5月	257.80	798.19	209.42	802.37	216.00	253.61
	6月	259.56	790.75	207.08	798.04	212.81	252.27
アメリカ	5月	18.71	50.56	3.27	30.59	21.09	20.85
	6月	18.71	51.02	3.27	30.59	21.77	20.64
アルゼンチン	5月	3.88	17.00	0.01	7.05	11.50	2.34
	6月	4.29	17.50	0.01	7.05	11.50	3.25
オーストラリア	5月	3.07	29.00	0.20	7.00	22.50	2.77
	6月	3.57	29.00	0.20	7.00	22.00	3.77
カナダ	5月	2.37	34.00	0.55	9.30	24.50	3.12
	6月	1.87	34.00	0.55	9.30	24.50	2.62
EU	5月	16.69	132.00	11.00	111.25	34.00	14.44
	6月	15.19	130.50	10.00	109.25	35.00	11.44
中国	5月	132.51	140.00	11.00	150.00	0.90	132.61
	6月	133.41	140.00	11.00	151.00	0.90	132.51
インド	5月	7.50	114.00	0.30	113.00	0.30	8.50
	6月	7.50	114.00	0.30	113.00	0.30	8.50
ロシア	5月	11.44	88.00	0.30	39.75	52.00	7.99
	6月	11.19	83.00	0.30	38.75	48.00	7.74
ウクライナ	5月	1.18	21.00	0.08	7.20	14.00	1.06
	6月	1.08	19.50	0.08	6.70	13.00	0.96

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

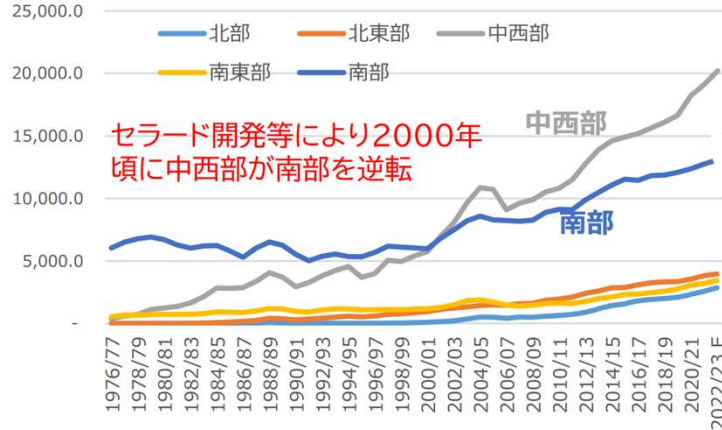
世界の穀物輸出を牽引する大豆生産の拡大と油脂需要の動向(2)

- ① 表題の大豆を語るには、まず大豆の驚異的な生産/輸出拡大を可能にした「ブラジル」を取り上げる必要がある。「KKR」では20年9月号から10回にわたって「躍進する世界の穀物生産/輸出大国ブラジル」のタイトルでその現状と課題について触れたが、今回は**主要生産地と輸出港までの物流、鉄道/幹線道路/アマゾン水系**を利用した輸送ルートなどについて整理したい。
- ② ブラジル大豆生産の2000年以降の急拡大の要因は、当然中国の大豆需要増大が背景にあるが、国内的には①南部地域やマトグロッソ州を主産地とするブラジル中西部とその東に隣接するマラニョン州等4州の「マトピバ」地域に於ける[表1][表2]に示した**大規模な作付面積/生産量拡大**がある。②また、同時に2000年以降遺伝子組換え種子への切り替えが急速に進み現在**GMO 比率は90%程度**、単収は約1.5倍の**3.5ト/ha**まで拡大したことが大きい。2000年⇒23年までの地域別作付面積は南部6百万ha⇒13百万haと2倍強、中西部は6百万ha⇒20百万haと3倍以上、全体でも15百万ha⇒43百万haと約3倍となり、その結果生産量は**40百万ト⇒150百万トと約4倍**に拡大し市場に溢れ出てきた。
- ③ ブラジル中西部やマトピバ地域での生産拡大は、酸性土壌「セラード」の**日本援助による改良事業**によるところが大きい。ネックになるのは消費地や輸出港までの物流網の未整備である。近年それは徐々に改善されつつあるが、主ルートは[図1]に示した①**鉄道網整備による南部サントス港向け物流拡大** ②**アマゾン水系を利用した北部サンルイス/ベレン港への輸送拡大**である。具体的に①は中西部マトグロッソ州⇒163号線トラックで700^キ南下「**ロンドノポリス**」⇒鉄道積替1,100^キ走り輸出港であるサントス港本船積 ②は中西部⇒トラックで1000^キ北上**ミリチトバ**⇒更に船で200^キサンタレン港(一部本船積)⇒サンルイス港本船積。また一部は鉄道/トラックにより**イタキ**港に向かう。ブラジルは米国と比較すると物流網と港湾施設はまだ未整備であり、特に内陸の物流インフラ整備とサイロ施設増設はブラジルの穀物輸出拡大には喫緊の課題である。
- ④ ブラジル**大豆輸出約1億ト**の港湾別輸出比率は[表3]に示した通りで、最大の輸出港**サントス33%**/パラナグア/リオグランデその他諸港含め**南部5港で62%**、北部ルートはサンルイス14%とベレン/イタキ港を含め**約30%程度**と推定されるが、各港湾競争力は今後の物流インフラの整備状況により左右される。サントス港は54のターミナルを有するブラジル最大の港湾都市であると同時に最大の穀物輸出基地であるが、22年3月中国最大の穀物企業である「COFCO」がその一角にある穀物ターミナル(STS-11)の25年賃借契約を結び注目されている。港湾当局によると**COFCOは今後7.6億リアル(約230億円)を投資し、船積施設/サイロ増設等工事を行い26年には年間16百万ト輸出する計画**である。また最近では、ロイター電によると先月5/29穀物メジャー「**BUNGE**」と「**全農グレイン(ZGC)**」が**サントス港のターミナル(T-39)の50%を鉄道会社「RUMO」から6億リアル(約180億円)で買収した**と報じられている。いずれにせよ、米国を抜いて最大の穀物輸出国となった**ブラジルの内陸集荷網と輸出基地**をめぐる争奪戦は激しくなっており日本にとっても目を離せない課題である。(続く)

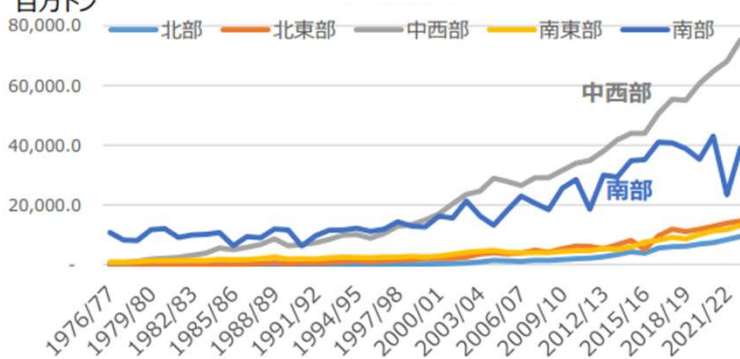
【図1】 ブラジル大豆の輸送経路



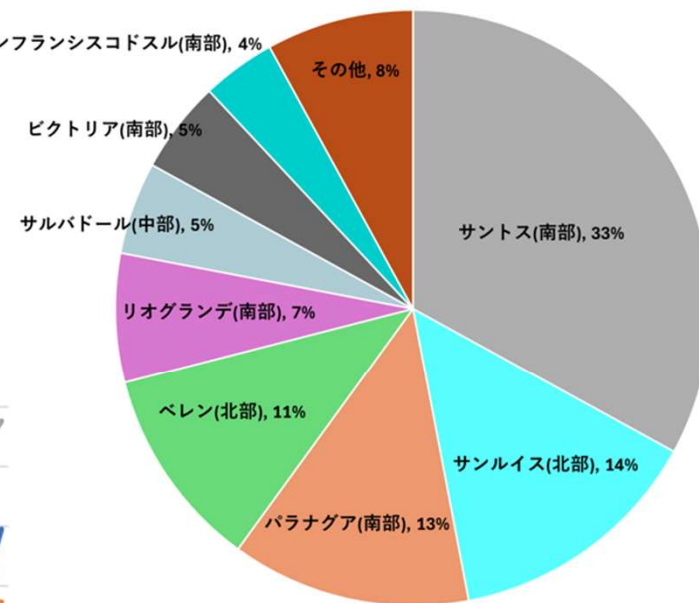
【表1】 大豆のエリア別生産面積



【表2】 大豆のエリア別生産量



【表3】 大豆の港別輸出比率



出所：農林水産政策研究所資料に一部修正加筆